

「空港型地方創生」 鳥取モデル

"Airport-based Regional Revitalization" Tottori Model

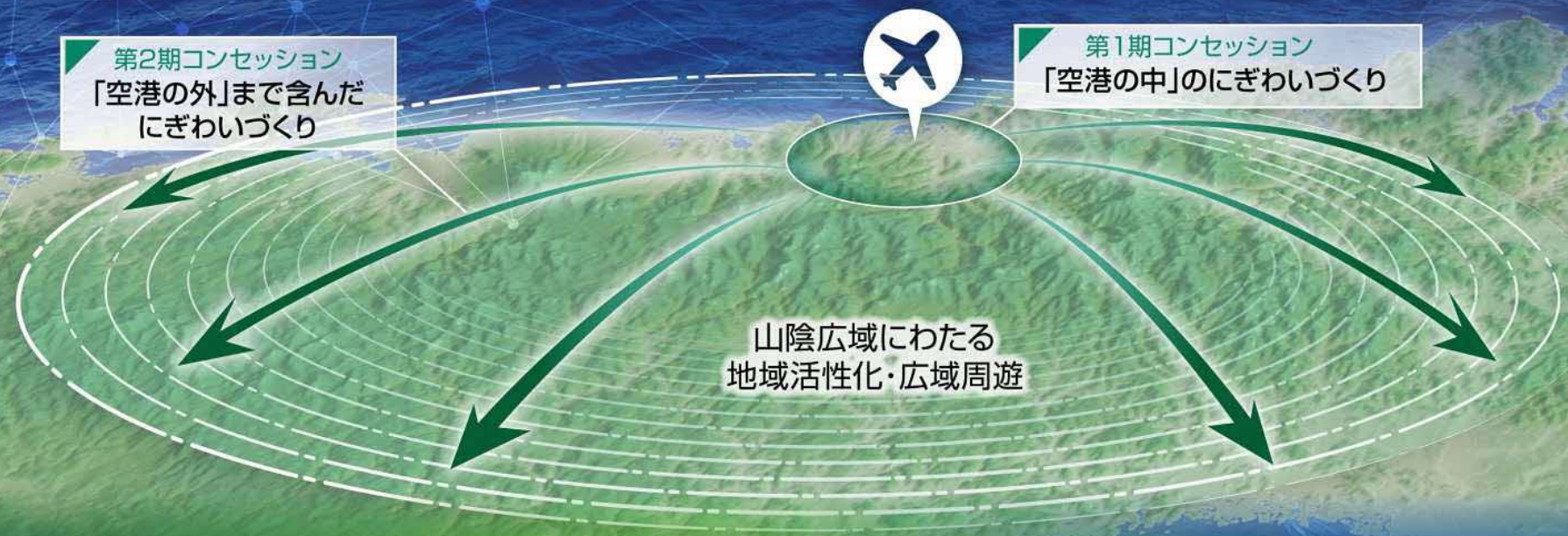
～もう一步先へ。空港の一層のにぎわいづくり。
そして空港から外に出て、地域を活性化し、
輝く鳥取を創造して成長する空港～

将来イメージ

「空港を超えた空港」

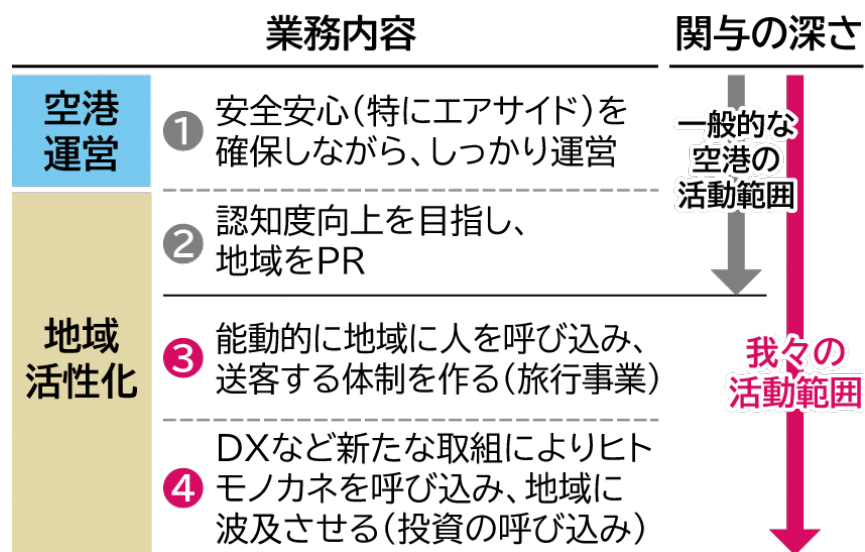
鳥取空港は、地域課題の解決に挑む地方空港の先進モデルとして、観光・交通・産業・人材育成をつなぐ地域共創型ハブを目指します。県内企業と共に歩み、地域をリードする企業文化のもと、DX、脱炭素化、体験型観光、越境学習など先進的な取組により外需を獲得し、人口最少の鳥取県における活性化の中核拠点となります。

「空港を超えた空港」として地域の持続的成長に貢献し、輝く鳥取の創造を実現します。



空港の発展は地域の発展から。地域を活性化させ、行き交う人を増やし、そして、空港の発展へ。

「空港型地方創生 鳥取モデル」を 実現する「新たな空港経営モデル」



目標値

| 項目 | 開始当初 | 5年目 | 終了年度 (20年目) |
|---------|-------|--------|----------------|
| 旅客数(国内) | 41万人 | 43.3万人 | 55.1万人 |
| 旅客数(国際) | 0.2万人 | 0.6万人 | 3.5万人 |
| 一般来場者数 | 45万人 | 47.5万人 | 60.5万人 |
| 貨物取扱量 | 300 t | 325 t | 437 t |

事業方針

- 航空ネットワークの維持・拡充
羽田線(1日5便体制)の安定運航を最優先とし、後泊キャンペーンや着地型商品の展開による閑散便対策を推進。台湾を中心とした国際チャーター定期便化やビジネスジェット誘致による多層的ネットワークの拡充
- にぎわいの創出(空の駅・ツインポート構想)
空港の「空の駅」化による交流拠点づくり。ツインポート構想のもと、二次交通の充実と朝市・体験型コンテンツの商品化による訪問動機強化、交通と観光の両面からの移動需要創出
- DX・脱炭素化の推進
人口減少による労働力不足への対応と脱属人化を軸としたDX導入。AI活用と設備投資による空港管理・経営・交通連携の効率化と利便性向上、再エネ導入による脱炭素型空港への転換
- 県内事業者の活用による地域密着運営
地域の特性を熟知し、即応性・現場力に優れる県内事業者・人材との協働による空港運営。知見・技術の継承による地域産業力向上、県内事業者が空港で新技術やDXに触れ、製品・サービスを発信する機会の創出と県内企業の挑戦・発展支援
- 持続可能な運営・人材体制の構築
「就職先として選ばれる空港」を目指した人材戦略、若者流出防止と地元人材定着支援。ワークライフバランスとウェルビーイング重視の柔軟な働き方、DX・資格取得支援による技能継承・現場力強化による持続可能な運営体制の確立

航空ネットワークの維持・充実

■ 航空ネットワークの維持・充実

- 羽田線5便体制の維持を最優先としつつ、国内外チャーター便や新規地方路線、ビジネスジェット誘致など多層的展開で航空ネットワークの進化を推進。官民連携で持続可能なネットワーク形成を目指す
- SPCの第2種旅行業登録や傘下バス会社ネットワークを活用し、航空路線維持・誘致につながる商品造成・送客・販路拡大を実施
- 観光に加え、首都圏企業を対象としたビジネス誘致の推進。鳥取空港や地域課題を題材に、鳥取大学や地域企業等と連携した実践型越境学習プログラムの展開。社員研修・人材育成の拠点化によるビジネス需要の喚起



- 国内チャーター便については、旅行業機能を活かした誘客拡大と、持続的な運航スキームの確立。鳥取と東北・北関東、南紀白浜を結ぶチャーター便については双方向の旅行商品造成・販売を通じて需要を創出し、運航の定着と広域交流の促進を図る。
- 複数空港運営によるエアラインとの連携力を活かし、自治体支援やトップセールスと連携した実効性ある路線交渉。また、傘下のビジネスジェット運航ノウハウで受け入れ体制を整え、富裕層・企業ニーズに応じた誘致を推進

<具体的施策例:羽田線閑散便対策>

- ANA292便(鳥取7:05発)では、宿泊補助を含む後泊キャンペーンや夜間観光の推進により翌朝便の利用を促し、ANA291便(鳥取8:15着)では、「空港に着いたら港で朝ごはん」といった、搭乗動機の創出につながる着地型商品の開発・展開により、搭乗率の向上とツインポート構想も推進します



©Tottori Pref.

- 鳥取砂丘・馬の背から眺める夕日や星空、漁火、流れ星を楽しむサンセット・ナイトツアーや、鳥取空港と米子空港が連携した広域周遊によるダイヤモンド大山(米子城跡からの絶景を望むサンライズツアー)といった体験型観光をオーダーメイドで企画・提供することで、航空需要の創出に加え、宿泊延長や消費単価向上といった地域課題の解決につなげます



©Tottori Pref.

空港や空港周辺のにぎわいの創出

■「空の駅」化の推進

- 地域の魅力発信や交流を軸に、各種イベントや飲食物販機能を**戦略的に展開**。空港を観光・交流・地域PR拠点とし、地元事業者の販路拡大や雇用創出につなげ、地域経済を後押し

<具体的施策例>

……3つの戦略的方向性……

- ① 地域の魅力発信・共有 ② 交流・出会いの拠点 ③ まちの広場へ

① 地域の魅力を発信・共有する空港

- 「地元の魅力を五感で体感できる場」として、来訪者が地域の個性を楽しめる空間を創出
- 鳥取港事業者等との朝市・特産品販売、山陰ジオパークMICEやアートイベント、体験型企画や「名探偵コナン」関連企画で記憶に残る体験を提供

② 交流・出会いの拠点としての空港

- 若者やU・I・Jターン希望者向けに、就職・キャリアフェア、産学官交流、企業マッチングなどを展開
- 自習スペースや「旅育」プログラムなどを通じ、空港を働き・学び・交流の場として活用し、地域との一体感を醸成

③ 地域に開かれたまちの広場への進化

- 空港を“日常の交流空間”として開放し、地域住民が気軽に訪れたいくなる仕組みを構築
- バックヤードツアーや滑走路ナイトマラソン、空港シネマ、eスポーツ大会など、多世代が楽しめるイベントを継続開催。子育て世代を含む幅広い層が雨雪時でも楽しめる「**空の遊園地**」づくりを進める

■ ツインポート構想の推進

- ツインポート構想は、**移動手段と移動需要の両面から地域周遊を強化**し、さらなる展開を図る
- 従来の二次交通整備から「もう一步先へ」と踏み込み、観光による訪問動機づけを重ねた独自の需要喚起施策への発展
- バス・タクシーの整備に加え、**運転手不足に対応**した相乗りや**配車効率を高める**ライドシェア・オンデマンド交通の導入、および**お客様自ら移動**できるレンタサイクル・カーシェア・レンタカーの追加・拡充による移動利便性の向上
- SPCの旅行業機能を活用し、ANA291便(8:15鳥取空港着)にあわせた動線設計による「**空港に着いたら港で朝ごはん**」などの着地型旅行商品の企画・販売(再掲)
- 需要喚起を通じた移動需要の創出と、**地元の食や暮らし・歴史・風土・文化等に触れる体験の促進**による観光満足度・滞在時間の向上および早朝便利用の促進による地域回遊の活性化



先進的かつ効率的な空港機能の維持

- 日本海沿岸に位置する鳥取空港の地域特性を踏まえ、20年間の事業期間を通じて、**安全安心な運営**を支える**最先端の空港DX**の導入・推進
- 空港施設の**維持管理の効率化と安全性の向上**、**環境配慮**との両立の実現

● ● ● 空港施設の運用・維持管理における3つの方針 ● ● ●

1

滑走路点検の自動化など、既にある実績のある最先端の技術の導入とともに、地域の企業とも連携して新たな技術、工夫を積極的に創出し、施設運用に関わる空港DXを推進していきます。

2

全国空港事業者協会のネットワークや南紀白浜空港で試行導入中の先進的な取組みも活用し、空港運用の更なる高度化と空港利用者の利便性向上を実現します。

3

脱属人化と安全性の向上を両立させつつ、環境にも配慮した上で、構成員である技術コンサルタントの知見や専門家の意見を活用しながら、施設の状態把握と適切な運用を推進します。

- 脱属人化を進め、労働力不足に対応した**持続可能な運営体制**を確立
- 県内事業者や多様なパートナーと連携し、AI等の先進技術**を活用した空港機能の高度化を推進
(例: SOCOCA(滑走路等点検管理システム)、「ドラレコ×AI」を活用した空港滑走路面の調査及び点検(インフラメンテナンス大賞(国土交通大臣賞)受賞の技術)、自動草刈りロボット、AIさくらさん(生成AI技術を活用したお客様対応、遠隔臨場技術))



- 除雪の効率化・高度化**: 日本海沿岸特有の重い雪に対応するため、メンテナンス履歴のデータベースを構築し、スノーブレードなど部品調達の効率化を実現。青森空港で実績のある「チームスノープラウ法」をはじめ、稚内空港のAI映像鮮明化・熱線カメラ、旭川空港の地域連携モデル、自動運転除雪車など、**他空港やインフラで試行導入中の技術**を効果と費用を見極めた上で積極的に導入。さらに、冬季の除雪と非冬季の草刈りを組み合わせ、人員の**マルチタスク化**による通年業務体制を確立

地域経済への貢献

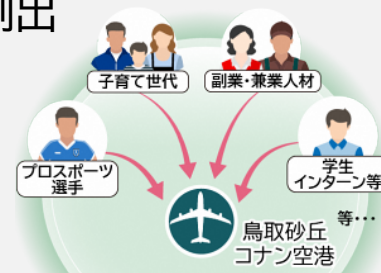
■ 県内事業者との連携に関する基本方針

- 空港は365日稼働する地域の重要インフラであり、その運営を支えるのは**地域企業・人材**であるとの基本方針
- **県内事業者との連携を基盤**とし、経験と知見を持つ事業者が中核的役割を担う体制の構築
- 南紀白浜空港で培った運営技術や、全国空港事業者協会で得た**ベストプラクティス**を活用した運営の高度化と、県内事業者との知見共有による**地域企業の育成**
- 地域交通・観光等を通じた地域内経済循環の促進と、県外企業への過度な依存を避けた**地域主体の持続可能な運営モデル**の形成
- 空港運営の技術・ノウハウを地域に継承し、脱属人化・作業の見える化・実践的教育を通じた効率的で安定した体制の構築
- 技術革新と地域連携により、**地域発の運営技術を全国に展開**可能なモデルへ発展させ、持続可能な空港運営の推進

■ 地域人材の雇用に関する基本方針

- 「空港型地方創生」の理念に基づき、**地域とともに価値を創出し**、持続的な地域活性化を目指す人材確保・育成の推進
- 若者の県外流出防止とU・I・Jターン受入の強化による**地元雇用**の拡大
- **多様な人材の採用と柔軟な働き方の整備**による**働きやすい職場環境**の実現

例：プロスポーツ選手の雇用や子育て世代の就労支援、副業・兼業人材の活用による地域とのつながりの創出

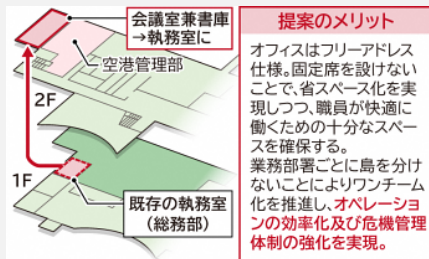


例：学生インターンによる“Z世代視点”の観光企画を通じた地域愛と人材育成の促進

- 研修体制と報酬制度の整備による**人材の育成・定着**と、持続的な空港運営体制の構築

安全安心な空港運営

- ・ **ワンオフィス化**により、安全・保安情報を一元的に集約。意思決定の迅速化を通じて、オペレーション効率と危機管理体制を強化



- ・ 利用者・従事者を含むすべての人の**人命と安全・安心を最優先**に、既存の取組を継続
- ・ 事業期間にわたり、技術コンサルタントである構成員の経験と知見を活かし、**適切な点検と予防保全**を実施
- ・ 担い手減少を見据えた業務の効率化・省力化による**安全・保安レベルの向上**
- ・ ICAOおよび国土交通省航空局の各種規定・要求水準を遵守し、改定や新基準への柔軟かつ迅速な対応
- ・ ビル会社職員および新規雇用する地域人材からの**適切な人材選定と育成**による、将来のマネジメント人材の確保と持続可能な長期運営体制の構築

事業実施体制

- ・ **空港運営の実績を持つ出資者**が中心となり、経営と現場が一体となった体制で円滑かつ安定した運営を実現
- ・ 代表企業主導の明確な意思決定と、**機動的・透明性の高いガバナンス体制**を確立
- ・ 鳥取空港ビル(株)の職員は、現行と同等の待遇を基本とし希望者全員を**継続雇用**
- ・ 「**就職先として選ばれる空港**」を目指し、多様な地域人材の採用・育成・定着を進め、持続的な人材基盤を構築
- ・ 成果と努力を正當に評価する人事制度を整え、研修やフィードバックを充実させて**職員の成長と意欲**を高めつつ、テレワークや時差勤務など柔軟な働き方を導入し、健康経営と**ウェルビーイング**の実現を進める
- ・ 「空港型地方創生」の理念のもと、専門性と組織文化を両立させ、DXと経験を融合した柔軟な運営体制を構築。熟練者の知見を形式知化し、**OJTや資格取得支援**を通じて技能継承と人材育成を推進
- ・ 教育機関や地域事業者と連携し、**次世代を担う地域人材を育成**することで、安全・安心が持続する空港運営を実現